やさしく女と男情報誌

共に

Vol.71
2024. 11.1

塩尻市企画政策部
企画課企画係
塩尻市大門七番町３番３号
TEL：(0263) 52-0280　内線1354
FAX：(0263) 52-1158
E-mail：kikaku@city.shiojiri.lg.jp

特集 イマドキの子育て事情とまちづくり

令和６年度　男女共同参画週間キャッチフレーズ「だれもがどれも選べる社会に」

男女共同参画週間(毎年6月23日～29日)に合わせて選定されています

塩尻市は、第五次男女共同参画基本計画[※1](2024～2032)を、令和6(2024)年4月に策定しました。誰もが個性や能力を発揮でき、認め合える社会の実現を目指し、3つの基本目標を定め、取り組んでいきます。基本目標は、次のとおりです。

基本目標1　時代変化にあった市民意識の醸成
基本目標2　様々なパートナーとのアクション促進
基本目標3　誰一人取り残さないセーフティネットの構築

本市は、昭和61 (1986) 年より県内では先駆け、男女共同参画を推進してきた歴史があります。時代の流れとともに社会の環境や意識も大きく変化し、これまでの取組を受け継ぎながら、新たに生じた課題にも対応する必要性も求められています。

ジェンダー[※2]意識を最も表す考え方と言われ、1950年代からの高度成長期を背景に生まれた「男は仕事、女は家庭」に反対する割合は、本市で一番古いデータとして第一次男女共同参画基本計画では平成12(2000)年は14.9%、第四次男女共同参画基本計画の基準値である平成26(2014)年は37.3%でした。令和4(2022)年は75.0%となり社会状況の大幅な変遷や、意識の大きな移り変わりを感じます。

第五次男女共同参画基本計画

女と男21世紀セミナー (2024.9.14防災セミナー)

このような状況のなか、コロナ禍において世界経済フォーラムは男性より女性に大きなダメージを与え、ジェンダー格差がますます開いたとの提起がありました。

就労機会や待遇差における男女格差を背景に、女性の方が社会経済の影響を受けやすく貧困などの生活困難におちいりやすい傾向があります。

「男女共同参画」は、性別等にかかわらず一人ひとりが尊重され、自分の意思でどんな活動にも参画する機会が平等に確保されていることを意味します。それぞれがどのような状態が望ましいのかを考え、家庭・地域・職場など様々な場面で、新たなあり方を探っていくことが大切になります。

いままでの仕組みや制度にとらわれない、しなやかで充実した地域環境を目指し活動されている方に伺いました。

編集委員　小松　洋子

男女がともに活躍できる社会へ
内閣府
男女共同
参画局

※1 本計画は第六次塩尻市総合計画の個別計画として位置付けている　※2 社会や文化で作られた性別役割

令和六年度　塩尻市

「豊かな心を育む市民の集い」のお知らせ

塩尻市では、人権意識の向上と、男女共同参画社会の実現を目指し、毎年人権週間に合わせて「豊かな心を育む市民の集い」を開催しています。

本年の人権啓発講演会では、東日本大震災や本年1月の能登半島地震の教訓から、日ごろからの備えや避難後の健康被害等を防ぐためにはどのようにしたらよいかを考えていきます。

頻発する自然災害においては、日ごろからの防災・減災・災害に強い社会をつくる取り組みが重要で、性別に関わらず、あらゆる人が意思決定の過程や現場に主体的に関わることが必要です。

○期　日　令和6年12月7日（土）
　午後1時30分～4時（開場午後1時）
○場　所　総合文化センター　講堂
○主　催　塩尻市・塩尻市教育委員会
○内　容
(1) 中学生人権作文コンテスト入賞者表彰及び朗読発表（予定）
(2) 人権擁護委員会塩尻部会活動報告
(3) 人権啓発講演会
　演題：「避難生活で健康被害や関連死を出さないために」
　講師：減災と男女共同参画研修推進センター
　共同代表　浅野　幸子さん
○託　児　1歳以上から未就学児童までのお子様が対象。無料で託児できます。(要予約)
○入場無料（申し込み不要）
※手話通訳が付きます

おすすめブック（書籍）紹介

Pick up!

性差別の損失
～なぜ経済は男性に支配され、女性は排除されるのか～

リンダ スコット 著／月谷 真紀 訳／柏書房

男女賃金格差、少子化などの本当の原因とは何か。世界規模で実地に体験、研究してきた著者により真の原因を明らかにし、それによる巨額の損失が起きている事実をデータを基に突きつける。意識を変えることが、立ち向かう術になる。

Pick up!

マリリン・トールド・ミー

山内 マリコ著／河出書房新社

友達なし、恋人なし、お金もなし。コロナ禍で家から出られない一人暮らしの大学生・瀬戸杏奈。ある晩、彼女に伝説のハリウッドスターから電話がかかってきて?!

Pick up!

グーチョキパーのうた

趙博 著／長谷川義史 絵／解放出版社

みんなが知ってるじゃんけん。勝敗を決める手遊びから人生の悲喜こもごもがみえる。グーもチョキもパーも強くて弱くて勝ったり負けたり。みんなちがってみんないい。

女性相談案内

電話相談・面接相談
【家庭内や職場等の人間関係のお悩みなど】
～ お気軽にご相談ください ～
月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）
午前9時～午後5時
☎0263-54-0783【直通】
※女性以外の方からの相談も対応します

編集後記

私が子どもの頃、「わたし作る人！」「ぼく食べる人！」と言ってインスタントラーメンを食べるテレビコマーシャルがありました。50年ほど前の事です。当時の私は、そのフレーズを何気なく、ついつい口に出していたものです。インスタグラムも、ユーチューブもない時代ですから、子どもに取っての情報源はテレビだけと言っても過言ではないです。テレビを観る度に、何回も、何回も流れてくるコマーシャルソングや、フレーズは、知らず知らずのうちに、耳に残り、覚えてしまいました。それと同時にいつの間にか“女性が食事を作る事が当然である”という固定観念が押し付けられ、植え付けられていたのかも知れません。

塩尻市は平成6 (1994) 年に全国に先駆けて、「男女共同参画都市」を宣言しています。更に今年の4月には「第五次塩尻市男女共同参画基本計画」が策定されました。そこで特集記事では、本市に移住や転居して来られた湯浅亜木さんと依田剛さんに若い世代を代表して、イマドキの子育て事情や、仕事・仕事以外の活動への熱い思いなどを語っていただきました。お二人とも「我が家では家事はお互いやれる人が、やれる時にやれる事をやっています。男だから女だからの役割分担ではないと思います。」ときっぱりとおしゃっていました。この言葉を聞き、耳の痛い方が少なからずいるのではないかと思わずにはいられません。湯浅さん、依田さん、お忙しい所ありがとうございました。

編集委員　横山　裕美

イマドキの子育て 事情とまちづくり

仕事と家庭の両立は

管理職で時間の融通が利くため、朝は子どもを保育園に送ったり、料理好きなので朝食を作ったりしています。家事の分担は特になく、気付いた時に気付いた方がやっています。会社内もこのようなパターンの社員が多く、年配の方でも家事は奥さん任せではないようです。生活にお金がかかりすぎることや、子どもたちの将来のために共稼ぎが当たり前の環境にあります。昔は、地域みんなで子育てする、見守りをするということが当たり前でしたが、今は自分たちだけで子育てするという意識が強くあり、子どもに携帯やGPSを持たせる寂しい時代になりました。社会は、システム化し個別化が進んでいますが、地域で見守ってもらえる方が、現実的ではないかと感じています。今は家事の役割分担についての固定観念は崩れていると感じていて、ネット上では料理や家事ができない男性に対する厳しい意見も見受けられます。

今後の目標は

今年4月から会社の実証事業として「週末ワインメーカーズ」がスタートしました。地域資源であるワインを活用し、栽培から醸造までを専門家に教えてもらえる事業です。参加者は、50代の方が多く、子育てが終わり第二の人生をどう生きるか模索している中で、地方暮らしや農業に興味があり、体を動かし好きなワインを勉強したいという動機を持っています。また自分たちもワイン振興に役立ちたいと考える地元の人もいます。自分の役割としては、栽培、醸造行程を事前に学べるようにウェブサイト上の動画を使って基本を知ってもらうことや、IT技術を使うことで作業者の補助に活用したり、システム化していくことで効率化を図るということをしています。

依田　剛 さん

上田市出身　約15年前に塩尻市に転居。妻と子供2人の4人暮らし。県内大手メーカー子会社勤務。塩尻がワイン産地であることを知り、ワインプロジェクトに関わるようになる。

現在取組んでいること

4〜5年前より会社も少し巻き込みながら、ワイン造りに関する活動をしています。今年から業務のうち15%程度をワイン造りに関することに充て、ぶどう栽培に従事する若者を増やすことやロボット等を活用することを目指しています。新しいことを興すには、今迄やって来たことを見直し、人とのネットワークや異業種からの視点で問題解決することが大切だと考えています。

会社は、世界を相手にものづくりをしていますが、自分は地元愛を大切にし、やっていることがストレートに地元に貢献出来れば嬉しいと考えています。

お話をお聞きし、確実に男女の境が解消されるのではないか、若年層になれば益々その傾向は顕著になるのではないかと感じました。子育てにしても仕事と家事の両立にしても、男だ女だじゃなく、出来る者がやる、どちらがやってもお互いが不自然に感じないそんな風潮が聞こえました。

2023年度雇用均等基本調査によると、男性の育児休業取得率30.1%で初めて30%を超えたと報告され、「育児休業取得がパパの最初の仕事」なる掲示物を見ました。こんな事業主が増え、格差のない平等な社会が早期に実現することを願うものです。

編集委員　横山　眞一

どんな願いを持って活動していますか

いままで育児は家の中でするものでした。だからこそ、一人で向き合って孤独になりがちです。イベントに参加することで子どもを預けられる関係性ができ、預けてもいいと思えることで救われたり、一歩前に踏み出せたり。自分自身を見つめ自分らしさを発見できる時間がもてる手助けができればいいと思います。育児者が、育児もできるし他の仕事や趣味もできるなど、自分らしい選択肢を持って生きていける社会になればいいなぁと思います。ソトでみんなで育児することにより、町と育児を結ぶサポートをしていきたいと思っています。私自身、4人のメンバーと活動できて本当に良かったと思っています。

仕事や家事の両立は

我が家では、家事も子育てもお互いのスケジュールでやれる人がやれる時にやること、得意・不得意はフォローしながらすることで、男だから女だからの役割分担でないと思っています。夫婦の事業にソトイクとの企画も増えてきましたが、家庭や仕事があってこその活動です。

湯浅　亜木 さん

東京都出身　4年前、結婚を機に友人のいる塩尻市に夫婦で移住。夫婦で事業をする傍ら、育児支援プロジェクト「ソトイク・プロジェクト」の副代表を務める。

どのような活動をされてますか

ソトイク・プロジェクトは代表のゴレイコさんが東京での孤独な育児経験を通して、家の中ではなく、まちのなかでみんなと育児することで、自分らしく生きていけるのではないかと始めた活動です。私は、その主旨に共感し、ソトで「沐浴」をするお試しイベントを機に活動し始めました。

子どもは保育士さんがみていてくれて、ただ2時間、育児者自身がやりたいことを黙々としましょうというイベント「託児付きモクモク会」や「ソトイクお茶会inスタバ塩尻店」などを開催しています。大人がいての居心地のいい空間でお茶会をして、ローカルな子育て事情の話など情報交換を通し、ゆるい繋がりを作るきっかけになっています。その他「ソトイク祭」や「ソトイク文庫」は、地域の人たちや行政、企業との交流も支援しています。イベントを通じて、まちと育児者をつないでサポートできるような機会を提供しています。

「家から出て育児をシェアする」、「共同育児」による子育て支援が、育児者を守るだけでなく、地域の人や行政、企業まで育児に対しての認識を変えつつあります。大旗を振った改革や解放ではないにもかかわらず、古い意識を変え、まち全体を変えてくれそうな力強さを感じました。

編集委員　吉江　令子

イラスト：古屋　敦子